

原野におけるクズ導入に関する研究

II. クズの移植期に関する試験

沢田 耕尚\*・満岡 勝\*・甲斐 光夫\*

SAWADA, T., MAOKA, M. & KAI, M. On Adaptability of Kudzu Plant (*Puelaria triloba*, MAKINO) to Pasture in Kyushu II. Observation on the Dates of Replant

I. 緒言 クズは元来本邦では山野に自生しているが、これを積極的に原野に導入増殖するには、多大の困難を伴う。クズを導入する場合に必要な増殖法に関して基礎調査を行うために、実生苗を用いて移植の時期を知るために本試験を行った。

II. 試験材料及び方法 1. 材料：1952年4月1日播種した実生苗。2. 試験地：当部内チガヤ自生地（1尺<sup>2</sup> 41. 7本）3. 移植期：1952年6月—53年5月。毎1月4. 移植株数：反当300本（1本植）5. 移植床：径1尺円柱型6. 施肥量：1床当り硫酸18.6 gm. 過石62.3 gm. 堆肥3.75 kg.

III. 成績 1. 植縮みと活着歩合：植縮みは8月移植100%，6月25%，7月41%，9月以降の移植は寒さのために落葉する。活着歩合は7月移植33%，9月移植80%，6月及び10月—翌春5月までの各移植では、全株とも枯死した。なおクズの生育ステージを伸長前期（6月—8月）、伸長後期（9—10月）、休眠期（11月—3月）、萌芽後（4—5月）に分けると、移植の最も良好な時期は、休眠期間中の移植で伸長期に入ったものは不良であつた。

2. 茎長は伸長前期移植のものは、年内に幾分伸長するが、伸長後期移植のものは年内には伸長しない。

全各期移植とも冬期間は茎が枯死して、翌春基部から新しく萌芽して生育するが、その伸長の程度は伸長

前、後期の両移植期のものが良好であつた。休眠期及び、萌芽後に移植したものは不良であつた。

3. 葉数は萌芽後及び伸長前期移植のもののみ、年内に増加するが、他の移植期では葉数が少く、冬期間には落葉する。翌年4月中旬に萌芽し、新葉の展開が見られるが、萌芽後の葉数の最も多いのは、伸長前期移植で、伸長後期及び休眠期の移植では少い。

4. 反当生草収量と植物体各部割合：各期移植のものを1953年10月に刈取つたが、その収量と茎の割合は次表の如き結果を得た。

表 I

項目	移植期			
	伸長前期	伸長後期	休眠期	萌芽後
生草収量	202	200	170	202
茎の割合	63.5	62.5	52.5	52.5

生草収量は伸長前期、萌芽後に移植したものが、最も多く、休眠期に行つたものが少い、休眠期移植の収量が少いのは、茎の割合が少く茎の伸長が短いものによると思われる。

IV. 摘要 移植は伸長前期に行うのが最も良いが、移植前後に降雨がなければ、休眠期に行うのが有利である。

\*九州農業試験場